

体育研究所開設 40 周年記念研究集会特別号に寄せて

日本体育大学学長 長谷川 正 明

昨年行われた記念研究集会からもう丸 1 年が経過する。研究所雑誌から原稿を依頼され気にはなっていたのだがその締切からすでに 3 カ月たってしまった。こんなに遅くなってしまったこと、所長はじめ担当の皆さんに本当に申し訳なくまずお詫び申し上げたい。

研究集会が開催されたのは平成 15 年 2 月 22 日であった。丁度その日がかねてからの懸案であった韓国慶熙大学との交流協定がようやく締結の運びとなり、その調印及び同大学の趙学園長への名誉学位授与のための式典の日と重なってしまった。本学にとってもめったになり重要な行事の日程がぶつかってしまい調製がつかないとは、世の中うまくいかないものだと、舌打ちしたのを思い出す。私も研究集会は円田所長に一切をお任せし、夕刻からのパーティーに出ることしかできなかった。今、考えても残念である。

このようにとても万全とはいえない環境の中で開催された記念の研究集会であったが内容は素晴らしいものであったと思う。今日の科学の中でも特に進歩が著しい分野である脳科学の最先端の研究者でいらっしゃる小泉英明先生の記念講演は、体育・スポーツの分野の研究者、指導者にこれまでになかった角度からの問題提起で大きな刺激を与えたはずである。また、本学の教員がパネリストを務めたシンポジウム「スポーツ選手の競技力向上について」は、円田所長の粘り強いご尽力で実現した企画であった。これは、スポーツを科学の立場から研究している人と、かつては自ら実践し、現在は学生に接しながら実技指導している人を専任教員として擁している日体大だからこそできるシンポジウムである。トップスポーツにおける実技と理論、この間の相互交流から生まれる成果が我が国の競技力向上につながるものと確信している。円田所長には機会があればこの私の考えを伝え、それが体育研究所の使命ではないか、と申し上げていたが、これに応じてこの企画を実現してくださったものと感謝している。6 人のパネリストの先生方にもこの誌面を借りてあらためて御礼を申し上げたい。40 周年の研究集会の内容が研究所雑誌特集号としてまとめられ、当日参加いただけなかった方々を含め、広くお読みいただけることは記念事業の意義をさらに高めるものであり、関係者のご尽力に心からの謝意を表すものである。冒頭に記したようにこの特集号の出版がこんなに遅れてしまった大きな原因を作ってしまったのが私であり、重ねてお詫びしたい。